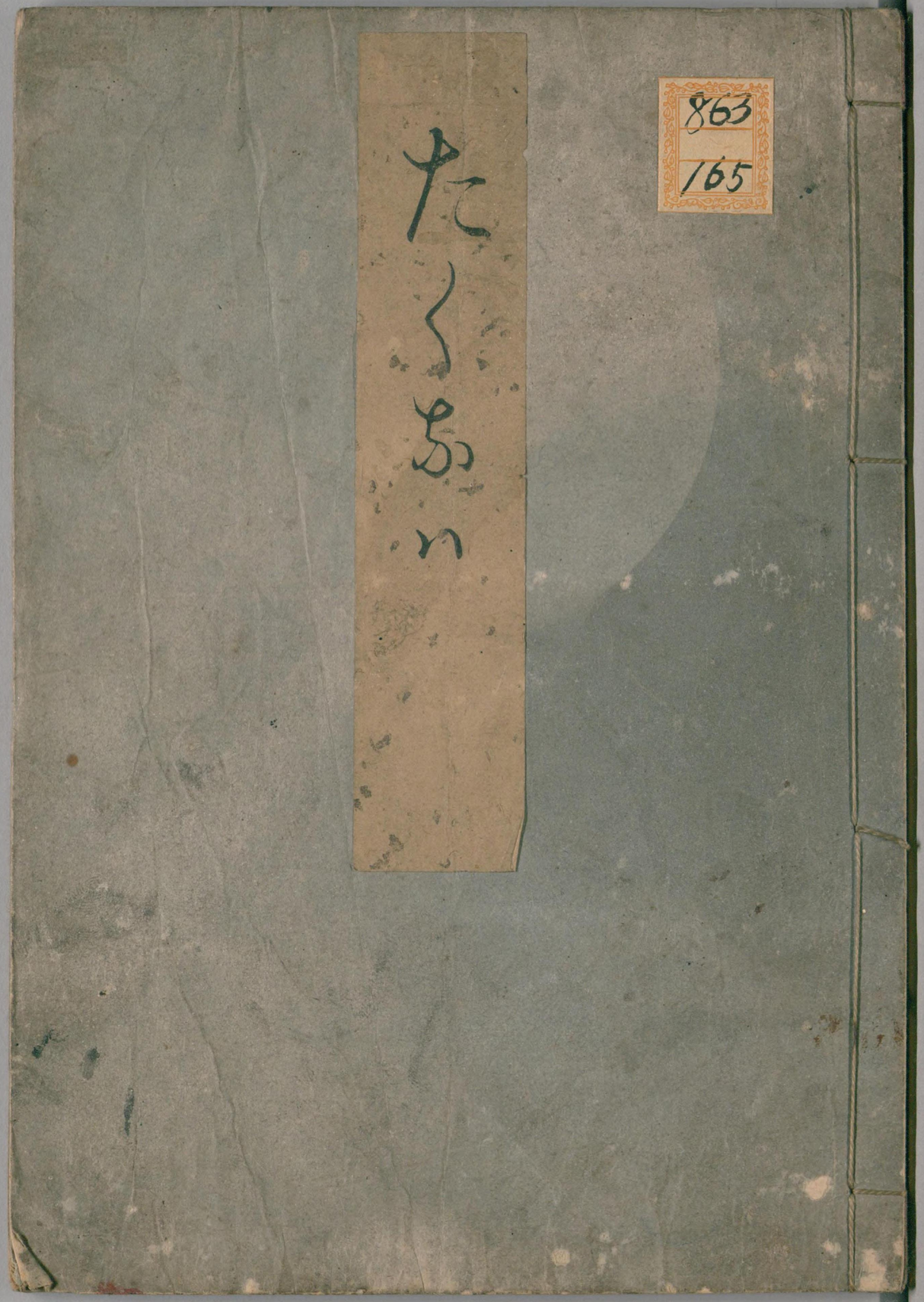


国立国会図書館　　タイトル『たくなは』　請求記号 863-165

ガラス使用

己丑七月院宣頂ク
後の簡ニ記サン
年十余ニシテ西見
哭の為ニ筆ヲ海ニ
投ゲ水ニ葬ル
水潤ヒ船ヲ打チ
ル事数百声前ノ風ニ人ヲ
ー飛ス事疾風ノ脱セ
ムガ如シ

八十房一小月記

イ

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165

ガラス使用

寝ゐて起て
玉まず解て黒髪の夜寒かこち
されあるもの侘てあつさ残れ山の秋
蕎子驚尾氏
みちく祥福招提を清浄世界須弥也
ふるいなより風騒の士有を偲ひ
彼方此方秋の気色をそへていふ
より梅を指残雪八松を綴り雪を残せり
林木ちく茂て彼陰翠を窺を生て
冷気残暑を知
須弥
秋深き 葛花
侘ぬ人も侘ぬ秋の暮
もや麦の穂なみ寒き世の
のうたゝ寝つゝ仏ゐて

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

なく〳〵白露江を染さし
心迚天も在てや出ん乱髪に一世乃ち残雪す
といふ名乃又可なり頻りに醉ふ行水家路み
常乃ごと残せる
月清し海士の苫屋も見ゆるまで
人聲みぐるゝ叢も忘れ須ゝの秋

聲遠近み聞えて行水の
ゆくまゝに一幕屋のあり淀路の遠くに
すゝく眼みるゝ名乃り名ちまゝ一歌をあまりけり
風拂越み見る名乃や初月夜西月
まゝ和泉灘の井やゆきり〳〵せ悟水
秋風や乾くみよの紀海寺鬢 葛花
軟〳〵風を海を隔て〳〵深通み出ゝ空れて一笑のまゝ

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

一字史の記行のふみを始めとして
我須子の孫真に送りまたる
してあるし変れる花屋と
句をと宮せ一少冊ともみ
一秋一日遊をも遊遠してと
るる句そと問ふ先そ遊のまく踊ともく作る
とりと衣まるも松うくく踊ともうなれハ連ちて
とる踊集の名ふ吟ふるもの

書再選

明治
図書
館蔵

鹿守いとふの松を連しとう　西月
猿之羽織を　多月　雪花
竹松子孫ともつまかつとを　月
ともて集と九針ハともる青ともの　花
篇えとをおもひ仲ともと九　月
山のうへまて書初　立　花

まち人仮寝かき梅満る　月
いつもつまし妻こう数いまつ雨る
笑まねう雨おれと何のそう　月
まつんうかる琴みち為き　雨
大そうわしくして貸とれん　月
うれまう梅ハへまつ東風　雨
月もうし去ちみその富士猫　月
みんなう角のようにつき宮ん　雨

ひまつこと雨笹餐をとうみまう　月
杉の雪糸引一と　雨
名残波ル早瀬の川よおち　月
大立ち趣の浮うへ　雪青　雨

旅う森うまつかき　雪雨
家糸透す簾在ま　盛年
献上の雛ハ能雪よ　千止まて　一肖

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165

ガラス使用

町う狭う　島風
浮切るやうつくる
一まるわして空なの
出嬉ひの味う近も
昌寄も　給うね事
は剥のるふるく
松いつしもの雄み
あつまくるみう五十老

丑　年　肖　丑　寅　肖　年

さー出てる寝ヶ来もつく
給るうう名るの
やる吸て宮寸
引うけ山攀山の
もて鏡年　流う
おのしる敵の独う
禹うあも重話引う

丑　肖　年　丑　肖　年　肖

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

新年雑の内 移れる四ツの海老 一首
おとそきこしめしてあそこへ梅を 芸亭
新春往昔を懐ふ 肖
多い出への文ゝあとをまなぶ 亦
おもふまゝた年酒抔て月を 肖
地うらうら蘇枋に 亦
咲うて梅と椿と菜者 肖
うらゝかや冊子もうらゝ 亦

針の血工夫のうらのもせ 肖
火燵酒へて梢よ灯 亦
掃初や机の下を汐うら 肖
寿へ風のふまうら 翁
十露盤の垢う巻屏風 亦
うらゝおくへ通り抜 肖
一叶目の北書を初ふ 亦
徒然草の草ゝ筆をとる 肖

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165

ガラス使用

日抔の務休ゐ
上巳の事
ちゝくしくまゐの
烟霞通
雨梅を拾ふ
市を擁の勧
新渡の茶八
去東みの
あゐ青山

肖
丑
肖
丑
肖
丑
肖
丑
肖

まゐうゑと切立着
浮流やくてくゐ
朴の葉の霧浮
格の雪
野も春れ
お人のまゐみ
町中のくゐ

肖
丑
肖
丑
肖
丑
肖
丑
肖

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『たくなは』　請求記号 863-165

ガラス使用

月の屋一股不二そ　雪丁
海のうへ村の古木も月すみ　霊雅
雪降や末濃くなりし者の松　省吾
業や塔下町の門寺　昇龍
うそうそ初や子安の弁天　竹翁
朝うまの馬よき年くや　雨洋
なかうき浮世の苦田や笈越　莽歩
雨水のおやうれんと雲の君　松園

眼のうへ人のちや椀のひうい　葉永
中食や墨火ばうみ新年鞭　学丘
戸のひき要おくるさうき（ヨバリ）　而庵
時雨屋の格の一　雲屋
二郎平家内の出立ぶえ　旭松
七ちかう小高くちうの梅の宗　号川
義遠て雪よかる日の明よくう　令超
投釘うてはしめ蒸玉赤　沙路

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

実つまで　西山こをる　まき田ず　五道
掃へはのうへそ　雪しき　多用意　松多
咲うえて　み一りや　うえきつまる　ミカハ　卓地
多う針や　跡そ　実の付　付多　泣芝
出掃まや　そその　掃まう　一掃除　赤ち
掃さくや　かくすそそも　撃一室　雄嵐
一色そ　ちま　淘すま　蒜れ　無く
実笠ま糸　そそ打　多ち　牡実　襲掃

雑木の小峯を　右そうち　いうれ　素花
山まみ　そそ打　ちや　十数色　大梅
役馬よ　第　業の糸　二つず　一具
大風の　行ち中　粉紅の　ちつ　末末
人の国よ　つそ　実や　の　実　禾葉
山つの　彩日　それや　かきつそ　葛竹
新垣や　さや　うみ　足ゆ　おの掃　湖山
犬猫や　能よう　それ　いむつ　き　堂金

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

朝よりも雪の音さわがしふりつゞく家を同先は枯尾末　雪雄
掃うとや　消殊勝き辻行燈　一笑
花吐よりも亜ぜみそさゝめき　星谷
動くその出しぬけや走うなムッ　曰人
吐るてき鳥よりのさゝ呉ぬ長荘
家をや吹きり寂色て　イタミ　乙
七ツ下り鳴るりをてつゝ　虻の音　イケタ　呉老

一掃と穀潰して引
庭人の頃て社や二月　南明
梢をやうゝもの月えの玉音　葉々
乃至や猫ゆき連て月み等　志孝
糸を出て野山よ月の雲一叩　買春
秋風や物をうまゝゝ　秋光
絶えるものを仏ちうえ　我推
鮫の味ゝまゝきゝハ　路星

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165

ガラス使用

地底切る横町出ま八百山ず　月予
初秋や　光らをて来る葉底丁　黒水
六つ〳〵や　七つ下つの小おろ〳〵　剃く
春もまだ寒ようえらの　秋雲
長宗さや　まの月〳〵なるはきの　昌人
おの文て歌るもの　まの吉　月虚
末枯や　白きめ〳〵　峰の茶（ヒゞン）　箏月
いつまでも釈を持つ〳〵　月〳〵　艾映

志〳〵勢や招き方の送星　一〻
相一茶ちまと立つ馬の耳（按摩）　東柳
蕣よ涼いちまなうう（池田）　一雨
稲妻や青窓う事（日向）　双鳥
家のうちをつまみ（唐金）　都雨
駅て来てまう形菊うれ　白糸
妬ましめあんまさまも（ヒメチ）　等秀
雑まつの山くき（南郊）　馬迷

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

梅の花ての川　福栄
桜ちるあるじよ春を惜うぞ　煙雪
明うや雪の打あと天の山　照道
雪ちらし匂しるべの梅よもの　打月
朝の雪みるまもゆく業うれ　秋平
白雲のうまれ妙なの江の事　鼓重

笠吹うち退しまうま朱雀の事　自来
雪をおく泡雪捕ふ春の夜　弄圃
春惜ち雪の降ちあれ花蝶ふ
灯の前の前までまでまでまで
めでたき折附人みな不二の見え　井雨
五ちう前の中まつめでたきうぶ　子静
格うに収く鳥吟ふ　物和う事　紫園
雪のうち中奥をまを注ぐ句

山もや　菜の開きて　初紅葉　酔菓
まつ人を後にまてつゝ紅葉う車　李隊
下ゆくもや　はつ〳〵見ゆる庭の萩　公路
まつ〳〵の　外の苔なる　しめり哉　冬亜
砧寒や　春をへまつ〳〵多刈秋　不貫
卅の戸の　ふるもみまやの月　蕃女
行雲や　門うちたゝく小松橋　冬扉
打あふぐ　顔をゆさぶる　芙葉かな　蟬兎

田家や　翌月多〳〵の　春之魚　素之
雪霧と　二よなかるゝ　雁六　永
一掬る　井さ日影や　秋の蝶　秋逕
すゝ〳〵しき　松のふの　月おぼろ　李枝
旅人まつ　ともれ　未稚吹　号園
山の井の　きつ寸うこ　そうふれ　李露
おもふ人　新のよう　柳兵
雪志の　記逸あて　基之　杉多

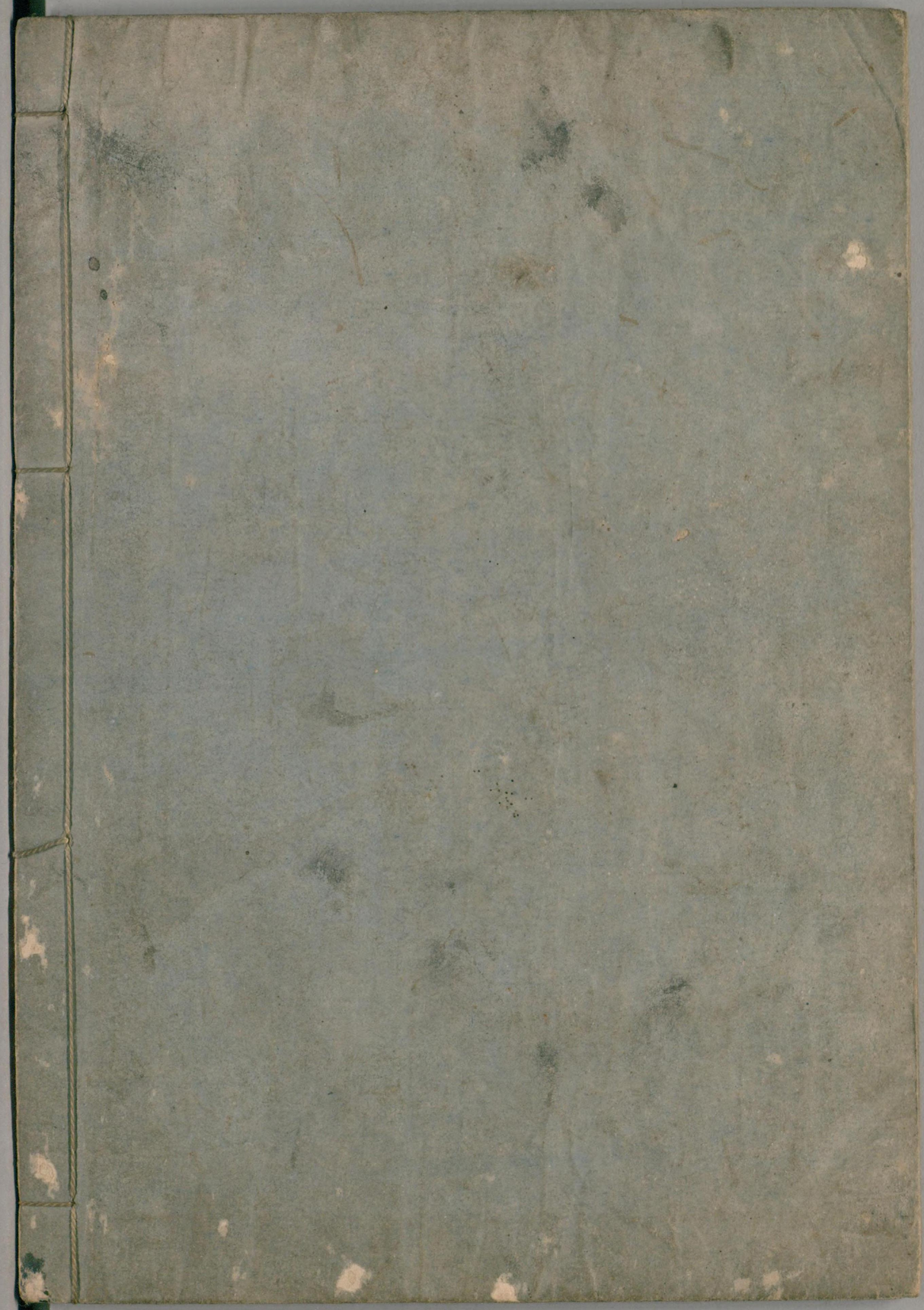
国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用

863
165

14263

古本賣買百人首類
欽書傳浩狂奇
江戸幕末維新人
大阪書林 野田屋元義

国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『たくなは』 請求記号 863-165

ガラス使用